

調査・研修等計画届出書

令和 5 年 9 月 26 日

瀬戸市議会議長 様

議員名 小澤 勝

政務活動として、下記のとおり調査・研修等を実施したので報告します。

記

期 日	令和 5 年 10 月 11 日から 10 月 13 日まで（2泊3日）	
調査先・研修名	青森県八戸市周辺視察	
会場名（会場所在地）	岩手県洋野村視察・岩手県野田村視察 青森県八戸市美術館視察・青森県おいらせ町視察	
調査・研修の目的 （今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて）	岩手県洋野村視察 ・東日本大震災以後の復旧・復興の取り組みに関して 岩手県野田村視察 ・野田村復興展示室 青森県八戸市美術館視察 ・学校、企業等との連携と実績効果、アートを通してのまちづくり、またイベント等による市民の反応 青森県おいらせ町視察 ・東日本大震災以後の復旧・復興の取り組みに関して	
議長名の依頼	要・不要	依頼先（名称）
同行者名	富田 宗一・西本 潤・三木 雪実・宮菌 伸二・高島 淳・朝井 賢次・山内 精一郎・颯田 季央・黒柳 知世	

* 行程表を添付してください。

調 査 ・ 研 修 等 報 告 書

令和 5 年 1 0 月 3 0 日

瀬戸市議会議長 様

議員名 小澤 勝

政務活動として、下記のとおり調査・研修等を実施したので報告します。

記

期 日	令和 5 年 1 0 月 1 1 日から 1 0 月 1 3 日まで（2 泊 3 日）
調査先・研修名	青森県八戸市周辺視察
会場名（会場所在地）	岩手県洋野町視察・岩手県野田村視察 青森県八戸市美術館視察・青森県おいらせ町視察
調査・研修の目的 （今回の調査・研修に係 る瀬戸市・自己の現状と 課題を踏まえて）	岩手県洋野町視察 ・ 東日本大震災以後の復旧・復興の取り組みに関して 岩手県野田村視察 ・ 野田村復興展示室 青森県八戸市美術館視察 ・ 学校、企業等との連携と実績効果、アートを通しての まちづくり、またイベント等による市民の反応 青森県おいらせ町視察 ・ 東日本大震災以後の復旧・復興の取り組みに関して
同行者名	富田 宗一・西本 潤・三木 雪実・宮藺 伸二・高島 淳・ 朝井 賢次・山内 精一郎・颯田 季央・黒柳 知世

10月11日・第岩手県洋野町視察

・テーマ・「東日本大震災以後の復旧・復興の取り組みに関して」

出席者・洋野町議会議員 大村文雄様・副町長 林剛敏様・防災担当職員3名

Q. 震災では死亡・行方不明者が出なかったと伺いますが、その理由をどのように捉えてみえるか

A. 主なものとして三点あるかと思います。まず一点目は「住民の津波避難の意識の高さ」、昭和8年の三陸津波の翌年から惨禍を伝える石碑の前で、毎年、津波のあった3月3日の前後に慰霊祭をおこなっている。

住民は、津波の被害や教訓を知っており、「地震が来たら高台に逃げる」という心構えを持っていること。

二点目が、津波発生時の消防団の行動が徹底がされている。消防団には、津波の際の河川遡上を食い止めるための水門閉鎖の管理がまかせられている。

三点目は、防潮堤の整備が挙げられます。町内には六つの地区に海拔12メートルの防潮堤が整備されており、昭和36年から始まり平成21年に完成し、震災の2年前に完了して備えることができました。

Q. 震災時において防災計画の機能について

A. 地域防災計画は、大きく分けて三つの主となる計画から構成されています。

一つ目が、訓練や施設整備等に関する「災害予防計画」、二つ目が、災害が発生した後の対応に関する「災害応急計画」、三つ目が、復興に関する「災害復旧・復興計画」です。

結論的には、震災に関してほとんどをカバーできたと考えています。

Q. 消防団との連携と活躍があったと考えるが、普段からの訓練等について

A. 消防団について、訓練を含めた取り組みとして三つ紹介します。一つ目は、団員の士気を保つ取り組み。二つ目は、水門管理の委託です。本町では、130箇所の海岸の水門等の管理を消防団に委託して、日頃から消防団が水門周辺の状況を把握することが可能であり、実際に震災では地震発生から12分で閉鎖を完了しました。三つ目は、複数の水門閉鎖を行わない「1部1水門閉鎖」を短時間で行う訓練と、避難誘導後の消防団自らの非難行動及び、海岸方面や低地へ向かわないた

めの道路封鎖の訓練を行っている。

Q. 県内最速で魚市場が再開できた理由は

A. 人的被害が無かったことが第一に挙げられる、次に、漁業関係者と町災害対策本部の魚港班が一体となり、港内及び市場周辺の瓦礫撤去が早く行われ、魚を保管する水槽や計量器などの必要な資機材の調達など、各魚協が協力し早期再開が果たされた。

Q. 復旧についての課題と対策について

A. 瓦礫の処分約2万トンの処分に3年要しました。次に、震災復興計画ですが、計画策定に向けた住民の意見集約など、震災からおおよそ4か月後に策定。平成23年度から平成28年度までの6年間で、前半の3年間を「復旧期」、後半の3年間を「復興期」の2段階に分けて事業を推進した。震災復興計画では、3つの基本施策を掲げ一つ目は「町民生活の再生」、二つ目は「ウニの里と地域産業再生」、三つ目は「災害に強いまちづくり」です。具体的な取り組み事業は県の事業と合わせて34事業を実施しました。

Q. 原発事故に伴う風評被害と対策について

A. 平成24年度から放射性物質濃度検査機器を整備して町内で生産される農林水産物の放射性物質簡易検査を実施し、生産者や消費者の不安解消に取り組んでいます。

農産物にの山菜等については、希望者に対して放射性物質簡易検査を平成30年度まで実施し、令和元年度以降は基準以上の検出がないことから、県により年1回の検査のみが行われています。牧草地については、基準を超える放射性物質濃度が検出された所は、県等の事業を活用して除染作業を実施しています。また、基準以下の牧草地についても、安心して経営するための風評被害対策として、県から50%の助成を受けて除染事業を実施しています。

次に水産物について、現在も県では主にマダラ、マコガレイ、ミズダコなど、また最盛期前にウニ、アワビの測定検査を週に1回行っています。タラについては、町が検査を実施しています。以上の取り組みを行い、食品の放射性物質に対する消費者の不安を払拭し、産地としての信頼回復を図るため、平成26年から令和元年まで東京銀座の岩手県のアンテナショップ「いわて銀河プラザ」で「洋野町物産展」を年1回開催し、最終年の令和元年の物産展でアンケート調査を行ったところ、「岩手県産の食提供の濃度測定の取り組みについて」、理解できると回答した方は約85%、「岩手県産の食材や食品を利用したい」と回答し

た方は98%となり、消費者の不安の払拭は進んだものと捉えています。

Q. 関連して、福島原発処理水の風評被害や影響をどの様に捉えてみえるか伺う。

A. これからアワビ漁の時期に入りますが、輸出のウエートが可成りあり全国の漁協との協議により今後の対応を検討して行きますが、岩手漁連としては影響が大きいと考えます。

*以上、洋野町の震災被害に対する津波の際の対応、また幸いにも人災被害が無かったことが復興の進捗を早めたことなど、今後の取組みを多岐にわたり説明を頂き今後の本市の防災計画に参考となりました。

10月12日・岩手県野田村視察

・野田村復興展示室

出席者・野田村長 小田祐士様・産業常任委員長 小野寺光男様・
議会事務局 中居正美様・未来づくり推進班 藤田洋気様
移住定住観光班 廣内鉄也様

・平成23年3月11日：14時46分、東北地方太平洋沖地震により震度5弱を記録し、最大約18メートルの津波が襲来。津波の最大遡上到達高は37.8メートルを記録した。

住家の被害は合計515棟で村内の約3分の1に及び、37人の尊い生命と貴重な財産、そして歴史と思い出までもが奪われる甚大な被害が生じました。

3月12日に避難者が912人で、その後、復興に沿って7月3日までに避難者が0人で約4か月必要と成りました。

震災の直後から、全国の消防、警察、自衛官、近隣の消防団などの捜索隊が集まり、連日数百人体制で行方不明者の捜索やがれきの撤去などにあたり、懸命な活動な結果、3月28日には行方不明者の捜索を終了することができた。

支援について、3月13日より支援物資が届けられ受付を終了した同年8月までに、県からの支援を除く団体や個人、累計820件のご支援を頂きました。人的な支援として受付を終了した同年9月までに、累計1万2892人もの

ボランティアの皆さんのご支援をいただいた。

また、災害義援金として平成29年1月31日までに、全国から1343件、総額1億858万円の義援金が寄せられました。

こころと健康のケアとして、岩手医科大学から「いわてこころのケアチーム」の派遣を受け、被災者のケアを受けました。その後、県や個人医院のよる訪問診療や仮設診療などに加え、多くの医療チームから訪問診療の支援を頂いた。

・復興に向けて

平成23年4月17日に野田小学校体育館で、合同慰霊祭として村内28人の犠牲者と21家族、村内外から参列者約1000人が出席して「野田村東日本大震災犠牲者慰霊祭」が行われました。

・平成23年11月7日に「野田村東日本大震災津波復興計画」の策定
基本方針として“防災まちづくり”・“生活再建”・“産業・経済再建”

・平成25年4月、「野田村復興むらづくり計画」の策定

これは復興事業を通じて「野田村らしい魅力ある暮らし」の実現を目指す

- ・多重防災型のまちづくりで、将来にわたって災害に強いまちへ
- ・東日本大震災の経験と教訓を踏まえた避難場所・避難路のネットワーク
- ・津波に強いまちづくりに向けた津波防災施設等の整備
- ・防災集団移転促進事業による高台団地の整備
- ・被災市街地復興土地地区画整理事業
- ・村の街並みや生活に馴染む災害公営住宅の建設
- ・地域の足としてみんなから愛される三陸鉄道の運転再開 など

「生業と賑わいの再生」

- ・産業の再生 — 自営定置網・沿岸部の水田の復旧・のだ塩工房の再生・サケ・マスふ化場の再生・養殖はホタテの稚貝分散など
- ・新たな産業の取組み — ワイナリーの開所・野田バイオマス発電所・知産地商の推進「荒海団」の結成

以上、上記以外の新たな賑わいの取組みとして、ライトアップ日本・野田まんぷくマルシェ・野田村プチよ市などや、津波から市街地を守るポケット状の都市公園の整備、小・中・高校生、大人のワークショップによる公園計画づくり、歩いて自然と歴史文化を感じよう「みちのく潮風トレイル」などの取組みの推進など復興・再生に向けた意欲を村民をあげて取り組み新たな村の歴史・文化を構築を目指した姿

勢を多いに感じ取ることができました。

10月12日・青森県八戸市美術館視察

- ・学校、企業等との連携と実績効果、アートを通してのまちづくり、またイベント等による市民の反応

出席者・観光文化スポーツ部 美術館 副館長 宗石美佐様・
総務経営リーダー 水野茂樹様

“ 八戸市美術館・人とまちを育む美術館を目指して ”

- ・2021年11月3日に、これまでにない新しいタイプの「美術館」として、生まれ変わってオープンしました！

- ・新美術館・整備の背景について

一つに新しい美術館整備を求める市民の声の高まりがあり、平成27年3月に「24万都市にふさわしい新美術館の建設を求める陳情書」が議会で採択された。二つ目に「アートのまちづくり」の中核施設としての美術館機能拡充。三つ目に旧美術館の施設面での課題解決、昭和44年に建設された建物の老朽化、耐震性、展示空間の不足など

- ・新美術館の建物概要とビジョンについて

本棟工事費は約32億円（広場等の工事費・備品購入費等は除く）

「種を蒔き、人を育み、100年後の八戸を創造する美術館」

「出会いと学びのアートフォーム」

- ・それは3つの機能全てが融合した八戸固有の活動

「八戸の美」・「八戸の人」・「八戸のまち」に波及させる

- ・特徴 “ジャイアントルーム・専門性の高い個室群”

二つの特徴的な空間により美術館における学びの環境を目指す

- ・事業として「基本事業」と「パイロット事業」の2つで構成し、新美術館の専門性を高める事業。

市民や地域と連携しながら、調査・企画立案・コーディネートなどをチーム全体で担いながら実施する、特徴的な事業。

- ・特徴として、入館は無料、ジャイアントルームのフリースペースは誰でも自由に使える、ジャイアントルームやテラスは持ち込み飲食可能など、フリー

スペースとして自由な使用、また大学と連携し個別室を有料で貸し出し各種講座やイベント企画など自由な発想で年齢を問わず時代に合わせたテーマの取組みがなされている。

10月13日・青森県おいらせ町視察

・東日本大震災以後の復旧・復興の取り組みに関して

出席者・議会事務局局長 佐々木拓仁様・

まちづくり防災課 田中淳也課長・ 同 課長補佐 川口邦彦様

テーマ・東日本大震災からの復旧・復興のについて

- ・町内最大震度5強 ・津波の高さ、最大8.8m ・避難所10か所775人
- ・のべ避難者数 2442人（21日間）・人的被害状況 重傷者1名 軽傷者2名・住家被害 152棟（うち全・半壊78棟）・非住家 157棟（うち全・半壊98棟）
- ライフライン — 停電 3月11日～13日・
電話不通 13日午前～14日早朝
燃料不足 3月25日まで
- ・平成23年8月17日市・特定被災地方公共団体に指定され、復興交付金により対応し平成24年1月「おいらせ町震災復興計画」を立案、これを指針として復興・再生を進めた。
- ・復興の一つとして地震発生時に町民に対し迅速かつ正確な情報を提供し安全な避難勧告・指示を行うために「津波監視カメラ」（360度旋回型2眼式カメラを整備）。
- ・「おいらせ町 明神山防災タワー」、このタワーは浸水域内に位置し大津波避難場所までの避難が困難な方々のための緊急避難施設（場所）となる。
 - ・高さ 9.8m（海拔23m）・総事業費 約2.3億円・
 - 竣工 平成27年12月24日

調査・研修の成果・考察
(瀬戸市への反映・自己の能力開発への寄与等)

考 察

- ・今回の視察は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の災害被害を受けた3町村を訪ね震災時の対応、震災後の復興状況を視察させていただきました。3町村とも被災をされ人災に限らず家屋崩壊など地域の壊滅的な被害状況の中、消防団を始め各種団体の皆さんで協力し合い地域復興に尽力され、説明して頂いた方々から今日に至った思いが伝わってきました。

今後の街の復興を目指し震災からの12年が活きた教科書としてまちづくりに活かして、今後を担う若い世代に何を残し何を継承し、また、新しい歴史や文化を築く指針となるよう世代を超えて頑張って見える姿勢に大いに参考とさせて頂きました。

大きな意識の違いとして、震災に遭遇された地域の皆さんと、幸いに震災に遭遇していない地域との意識の温度差の違いを、3町村でも被害の大きさで温度差があると話をされたことが大きく印象に残っております。

身近に震災に対する意識が実感として遭遇していない本市との違いはありますが、防災を本市の身近な問題として考えなければと感じました。

行程表

乗り換え案内ジョルダン <http://www.jorudan.co.jp/>

※往復利用の場合は、往復料金を入力してください。

日付	出発駅	交通手段	片道 往復	到着駅	距離		交通費		
							運賃	特急料金	等
5 年 10 月 11 日	名古屋飛行場	飛行機	片道	青森空港	693	km	37,300	円	円
						km		円	円
						km		円	円
						km		円	円
						km		円	円
宿泊先名称					TEL		宿泊料金		
アパホテル本八戸					0178-73-3000		13,000 円		
備考欄									
青森空港から八戸市内の移動の際はレンタカーを使用する。									

50,300 円

日付	出発駅	交通手段	片道 往復	到着駅	距離		交通費		
							運賃	特急料金	等
5 年 10 月 12 日						km		円	円
						km		円	円
						km		円	円
						km		円	円
						km		円	円
宿泊先名称					TEL		宿泊料金		
アパホテル本八戸					0178-73-3000		13,000 円		
備考欄									
八戸市内の移動の際はレンタカーを使用する。									

小計 13,000 円

日付	出発駅	交通手段	片道 往復	到着駅	距離		交通費		
							運賃	特急料金	等
5 年 10 月 13 日	青森空港	飛行機	片道	名古屋飛行場	693	km	37,300	円	円
						km		円	円
						km		円	円
						km		円	円
						km		円	円
宿泊先名称					TEL		宿泊料金		
							円		
備考欄									
八戸市内から青森空港の移動の際はレンタカーを使用する。									

パック等による割引など

小計 37,300 円

22,250 円

宿泊費 合計

交通費 合計

26,000 円

74,600 円

申請額合計
(宿泊費+交通費-割引代)
78,350 円